



航空分野におけるGHG削減に向けた ENEOSグループの取組みについて

ENEOSホールディングス株式会社／ENEOS株式会社
常務執行役員 須永 耕太郎

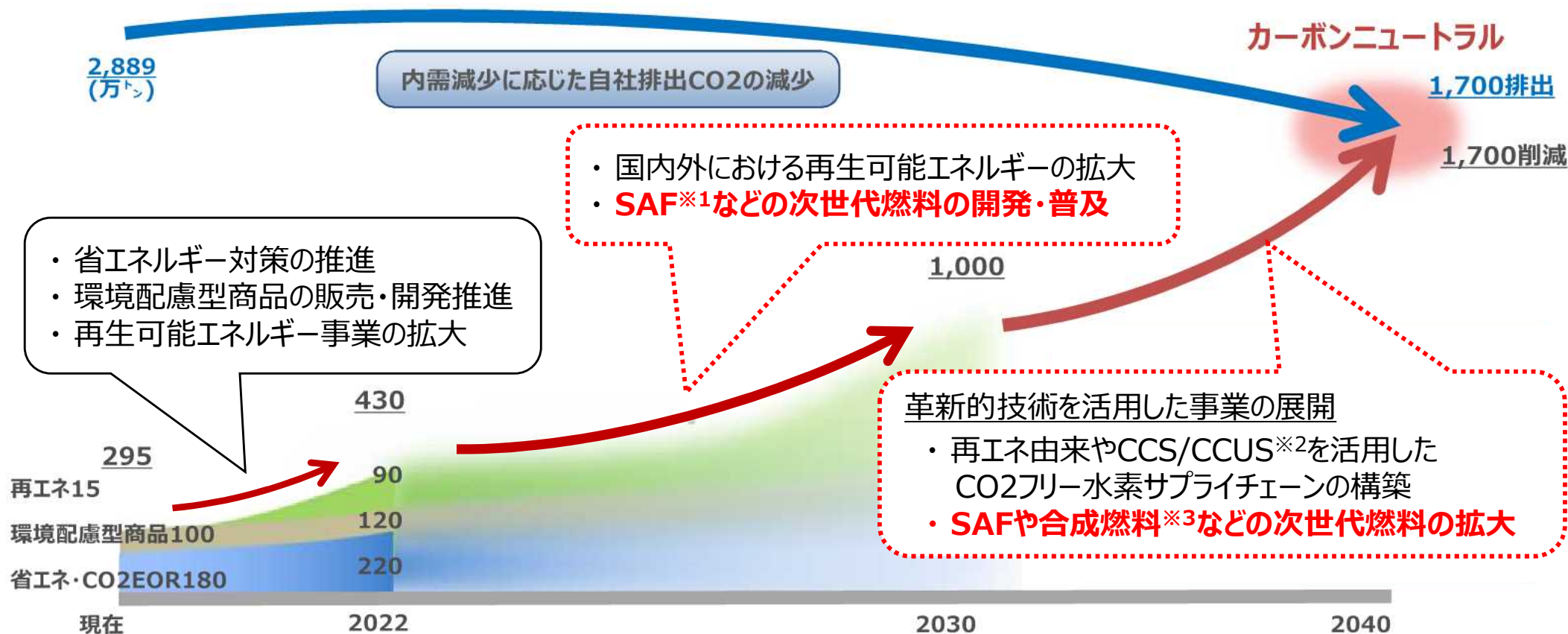
2022年4月22日

カーボンニュートラル実現に向けたENEOSグループの方針

関係者限り

環境ビジョン
(2040年度) : 当社グループは、環境負荷の低い事業を強化・拡大すると共に、リサイクル事業の強化等を通じて、**自社のCO2排出について2040年度のカーボンニュートラルを目指します。**

長期環境目標
(2030年度) : 2030年度CO2排出量について、2009年度比約**1,000万トン削減**を目指すとともに、リサイクル事業を推進し、**低炭素・循環型社会の形成に貢献します。**



※1 SAF : Sustainable Aviation Fuel (代替航空燃料)

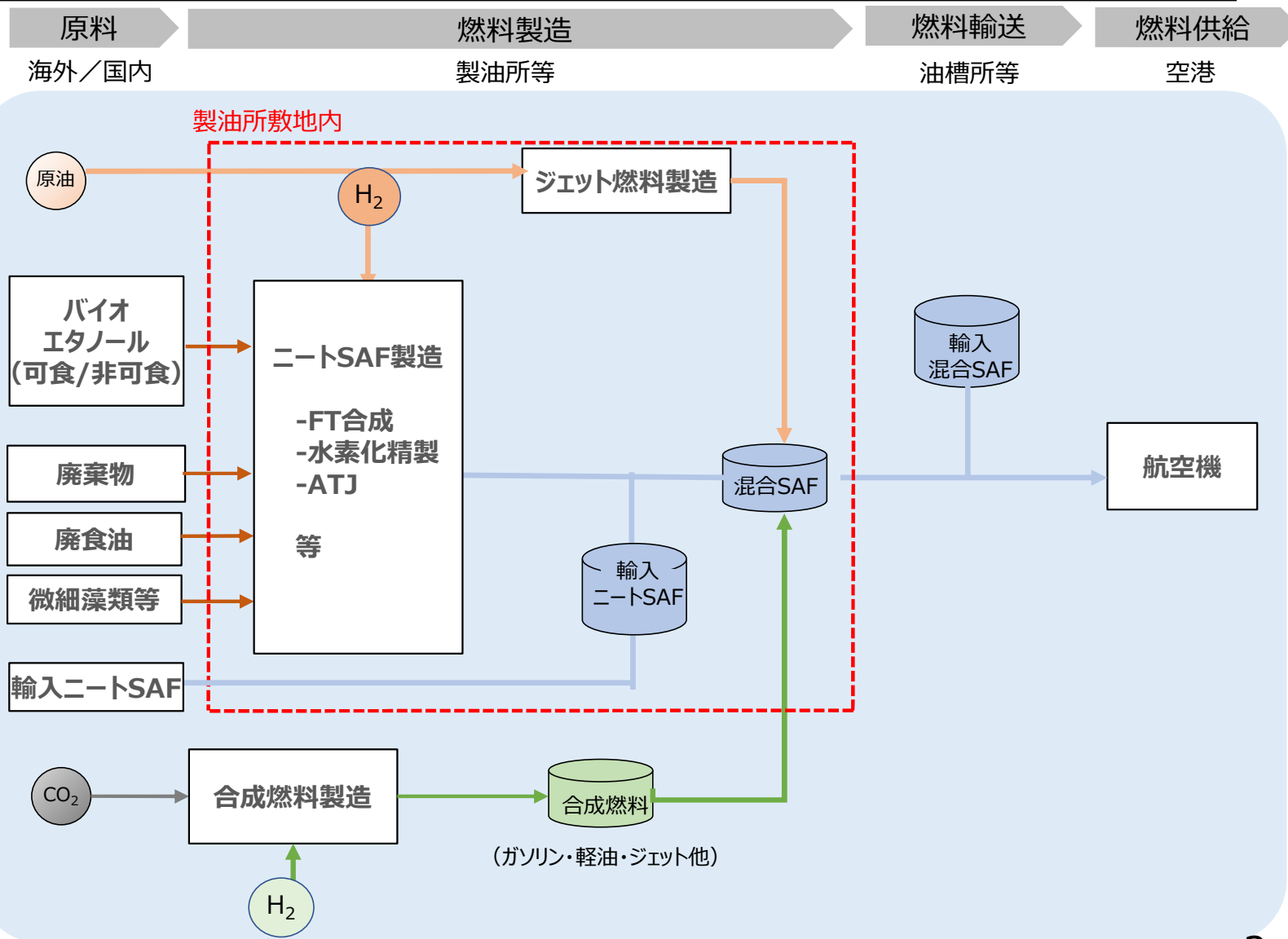
※2 CCS : Carbon dioxide Capture and Storage, CCUS : Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage

※3 合成燃料 : CO2フリー水素とCO2を合成することで製造するカーボンリサイクル燃料。既存の石油インフラの活用が可能

SAF安定供給に向けたENEOSの取組み（全体像）

関係者限り

- 2027年CORSIA規制対応の為、自社製造体制を早期に構築するとともに、並行してSAF輸入体制を確立し、国内航空会社への安定供給を実現します。
- 中長期的にはSAF需要を満たすバイオマス等の原料の不足が見込まれることから、合成燃料など革新的なカーボンニュートラル燃料の製造技術の実装にも取り組みます。



【取組み①】
自社SAF製造体制の早期構築

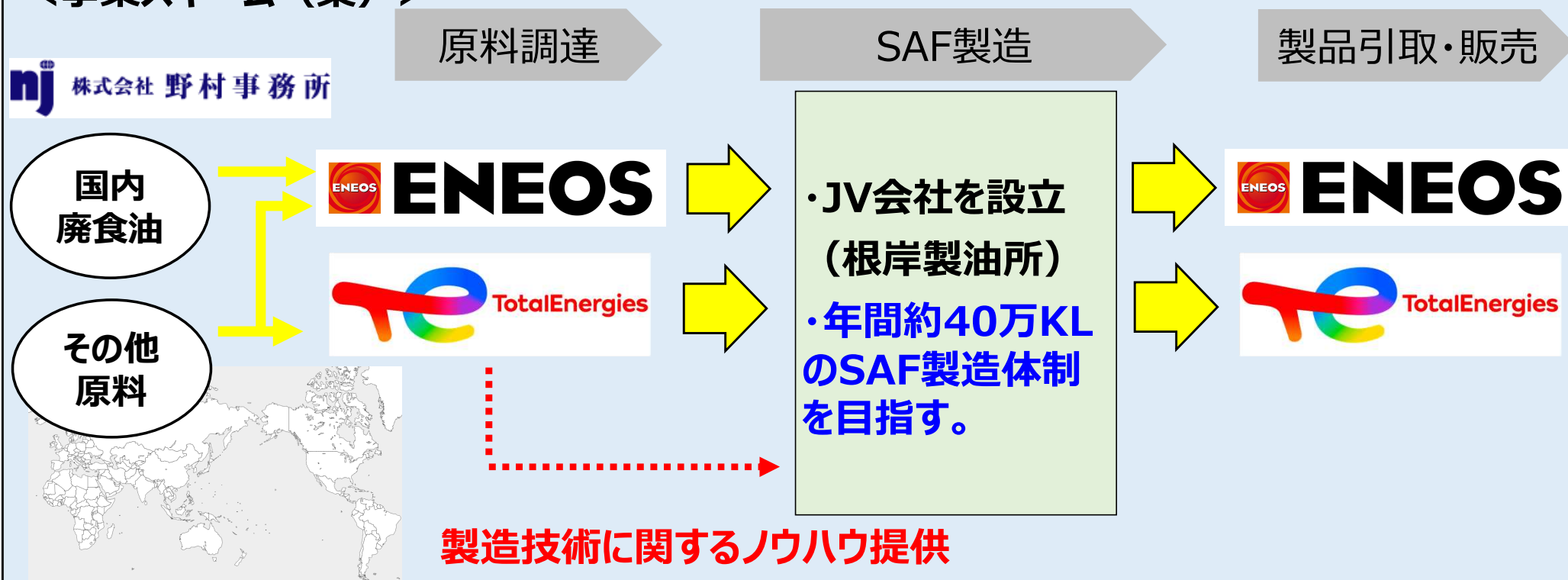
【取組み②】
SAFの輸入体制確立

【取組み③】
革新的カーボンニュートラル燃料製造技術の開発と実装

SAF安定供給に向けた取組み①：自社製造体制の早期確立

- 2025年を目途に、日本におけるS A Fの安定供給体制を確立すべく、TotalEnergiesとのSAF製造に関する事業化可能性調査を開始します。
- また、野村事務所と、日本各地から廃食油を安定的に調達する仕組みの構築を目指します。
- 既存製油所の設備・施設を最大限活用するとともに、TotalEnergiesが持つ原料調達・製造に関するノウハウとのシナジーを実現することにより、競争力が高く、持続可能なS A Fサプライチェーン構築を目指します。

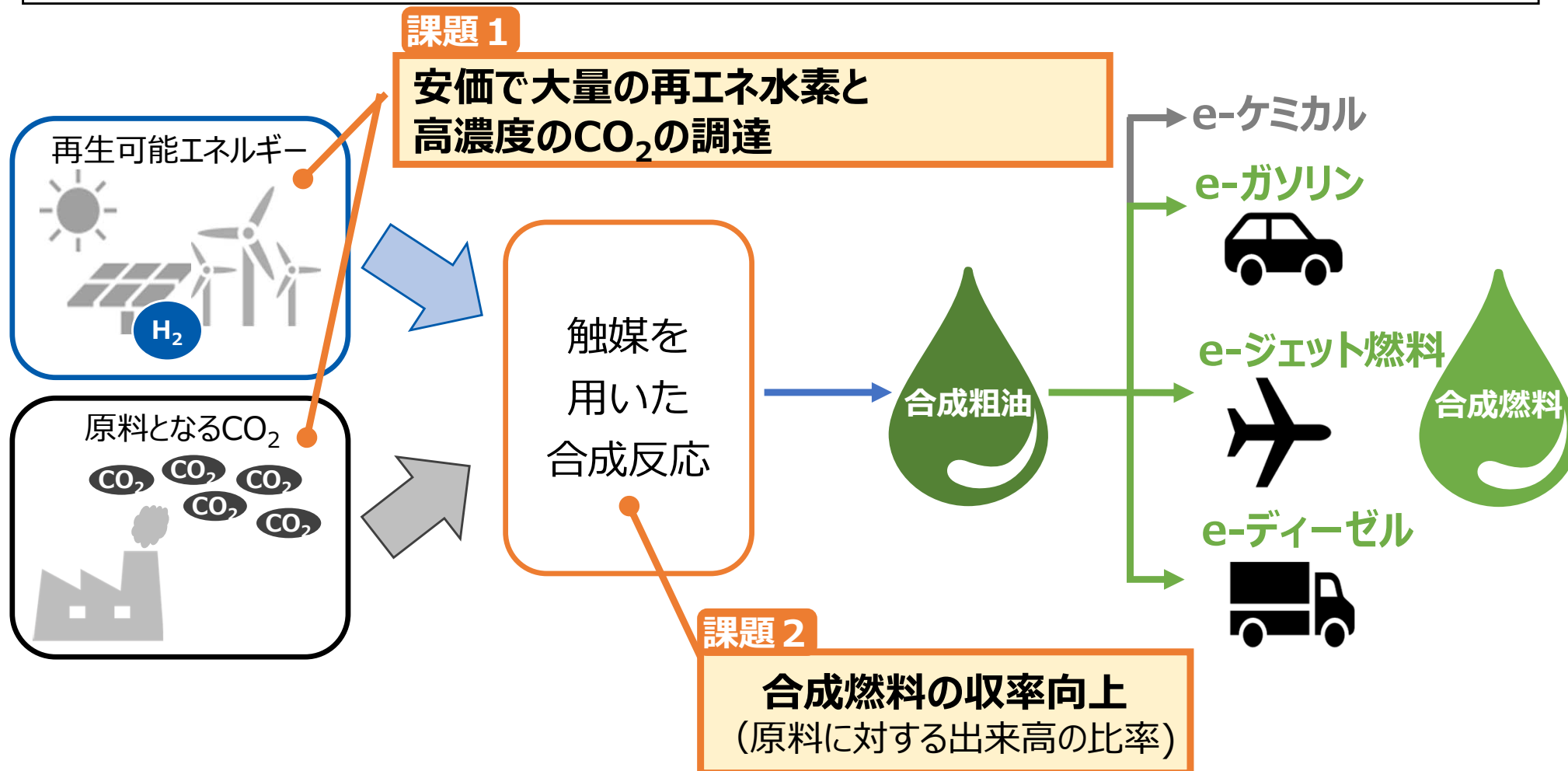
<事業スキーム（案）>



SAF安定供給に向けた取組み③：自社独自技術の開発

関係者限り

- ・ バイオマス由来のSAFだけでは原料調達に限界があり、航空分野のカーボンニュートラル実現には再エネ合成燃料などの革新的技術の開発と社会実装が必要です。
- ・ 再エネ合成燃料とは、再エネ由来のCO₂フリー水素とCO₂の合成反応により製造される液体燃料です。
- ・ 安価で大量の原料調達と再エネ合成燃料の収率向上がコスト削減の鍵で、ENEOSは製造技術の開発に取り組み、社会実装を目指します（GI基金に採択済み）。



- ENEOSグループは、総合エネルギー企業として、国内SAF製造体制の早期構築と合成燃料などのカーボンニュートラル燃料の製造技術の開発にチャレンジし、航空分野におけるカーボンニュートラルの実現に貢献します。
- 国内SAF製造体制の構築にあたっては、製造設備の新規設置の他、製油所・油槽所などの既存の石油サプライチェーンにおける設備改修などに多額の投資が必要となることから、設備投資に対する支援制度の拡充をお願い申し上げます。
- また、再エネ合成燃料などの革新的技術についても、実装段階においては原料調達や製造設備に関する大規模な投資が必要となります。GI基金など開発・実証段階の支援に加え、実装段階においても、欧米など主要国に見劣りのしない、大胆かつ長期的な政策支援を講じて頂きますよう、お願い申し上げます
- また、カーボンニュートラル燃料の持続的な供給体制の確立にあたっては、原料が安定的かつ安価に調達されることに加え、脱炭素価値が製品価格に適切に反映され、事業者がコスト回収できる制度作りが重要です。これら省庁横断的な課題についても、政府関係者の皆様の政策支援をお願い申し上げます。